

アルゼンチンのトウモロコシ事情



2012年11月22日
独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 横打 友恵

本日の内容

- 調査の目的
 - 米国の代替先として南米が注目される中、アルゼンチンの生産状況、生産拡大の可能性等を把握

- ポイント
 - ・ 生産動向
 - ・ 輸出動向
 - ・ 需要動向
 - ・ 今後の見通し

アルゼンチンのトウモロコシ生産



主要生産地

州別収穫面積



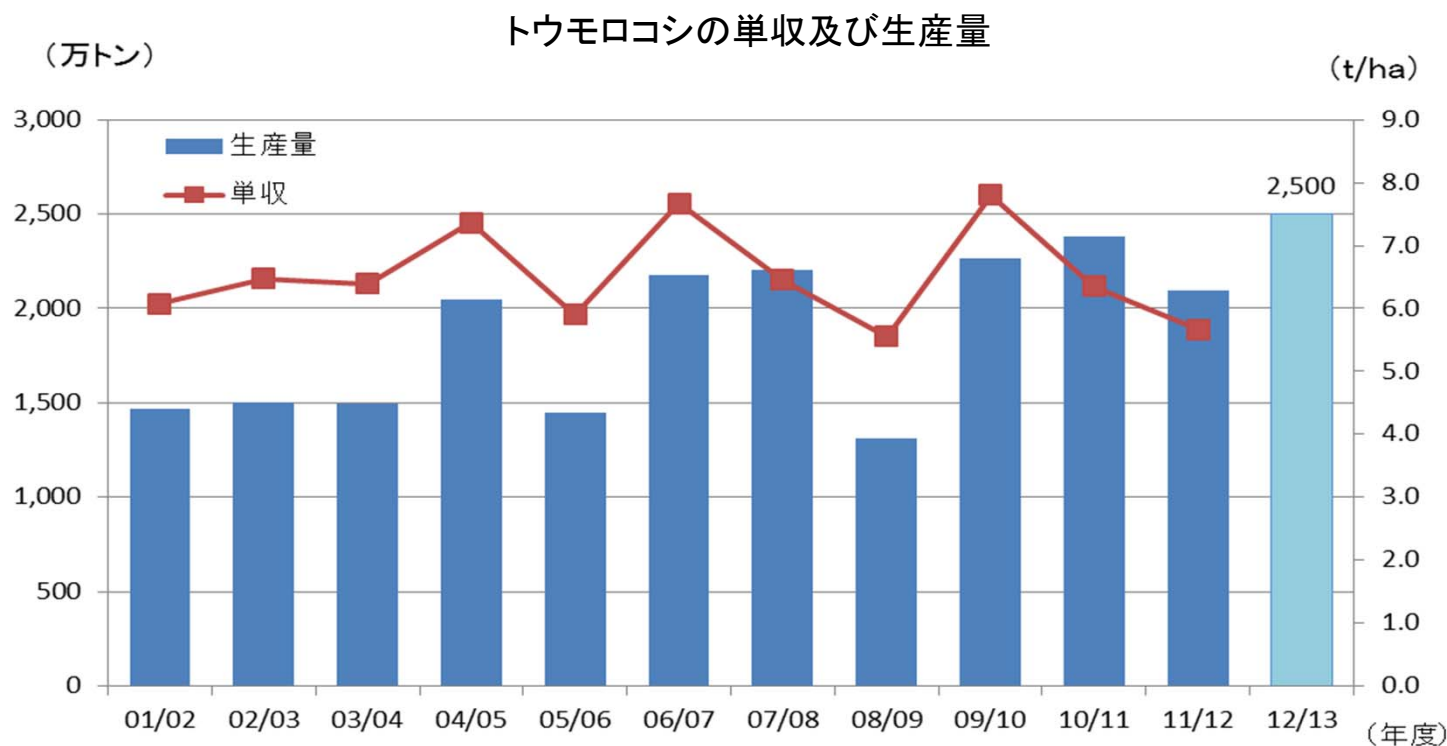
(単位: ha、%)

州名	2011/12年度 ①	面積割合	2010/11年度 ②	前年度比 (①/②)
ブエノスアイレス州	1,204	32.6	1,206	△ 0.2
コルドバ州	866	23.4	962	△ 9.9
サンタフェ州	553	15.0	488	13.3
エントレリオス州	200	5.4	176	13.9
ラ・パンパ州	108	2.9	119	△ 9.1
サンルイス州	118	3.2	116	1.5
サンチャゴデルエステロ州	341	9.2	303	12.4
その他の州	306	8.3	378	△ 18.9
合計	3,696	100.0	3,748	△ 1.4

資料: アルゼンチン農牧漁業省 (MINAGRI)

トウモロコシの単収および生産量

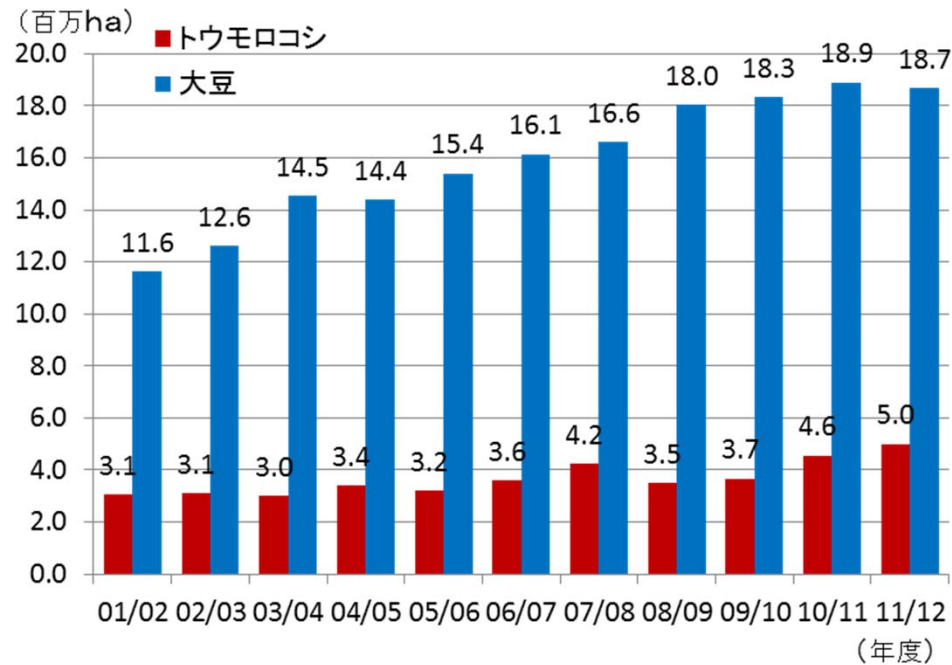
- ラ・ニーニャによる降雨不足の影響から、2011/12年度の生産量は前年度に比べ約12%減の2,096万トン
- 2012/13年度の見込み生産量は2,400万トン～2,500万トン



資料: MINAGRI

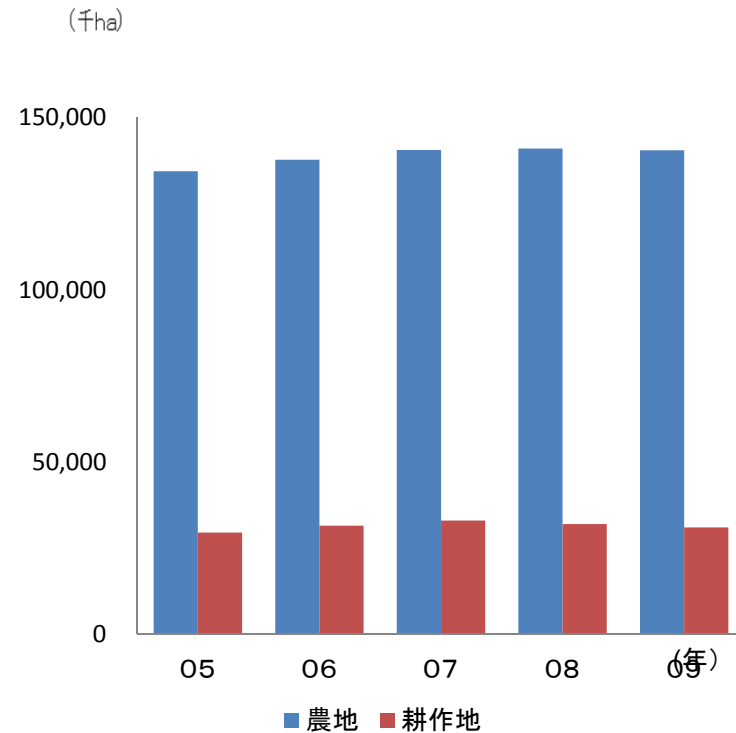
トウモロコシの作付面積の推移

○ 2011/12年度のトウモロコシ及び大豆の作付面積はそれぞれ500万ha、1,867万haと2001/02年度に比べ6割増



資料: MINAGRI

(参考)



資料: FAO

トウモロコシ生産現場（10月訪問時）

- ブエノスアイレス州北西部（サンペドロ市）の生産農家
6千haの農地を借上げ、うち3千haの耕作地で
トウモロコシ600ha、大豆2千ha、大麦400haを栽培。



同地域の土壌は重粘土

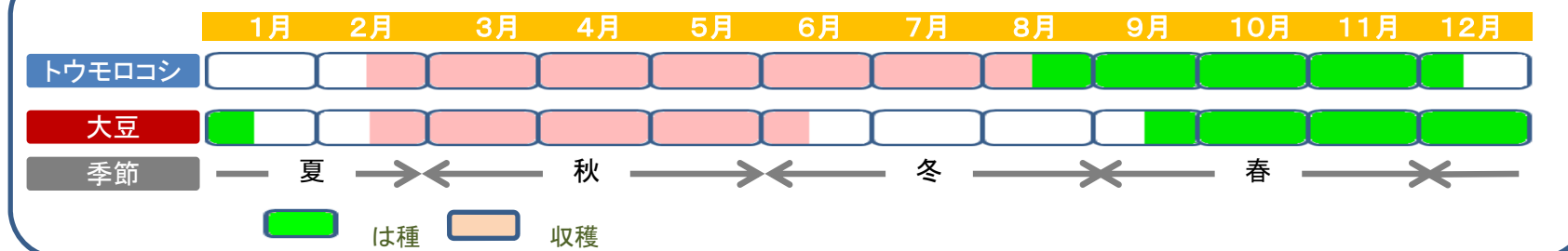


不耕起栽培を実施

ブエノスアイレス州でのトウモロコシ作付状況（10月中旬）

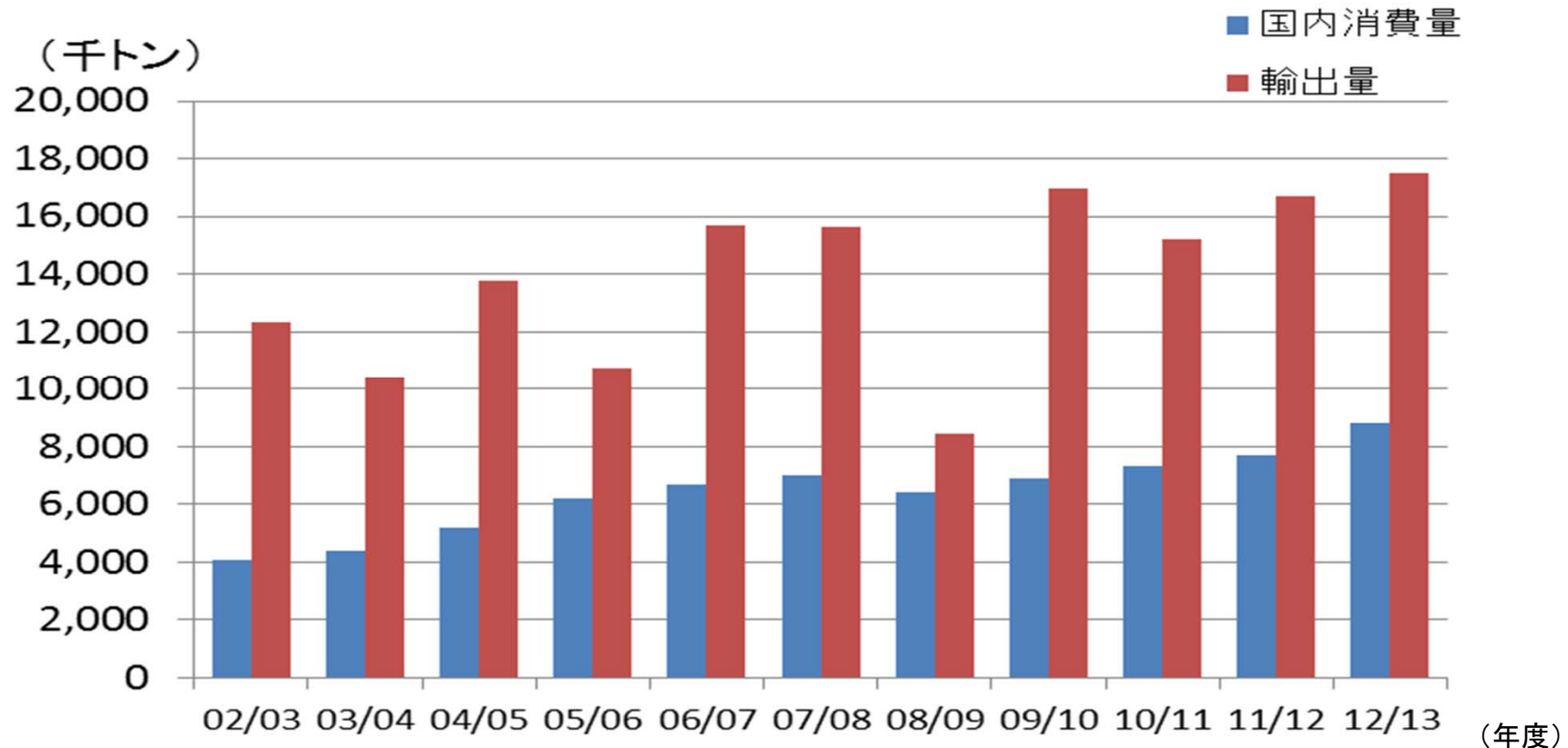


アルゼンチンの栽培暦



トウモロコシの国内需要・輸出の推移

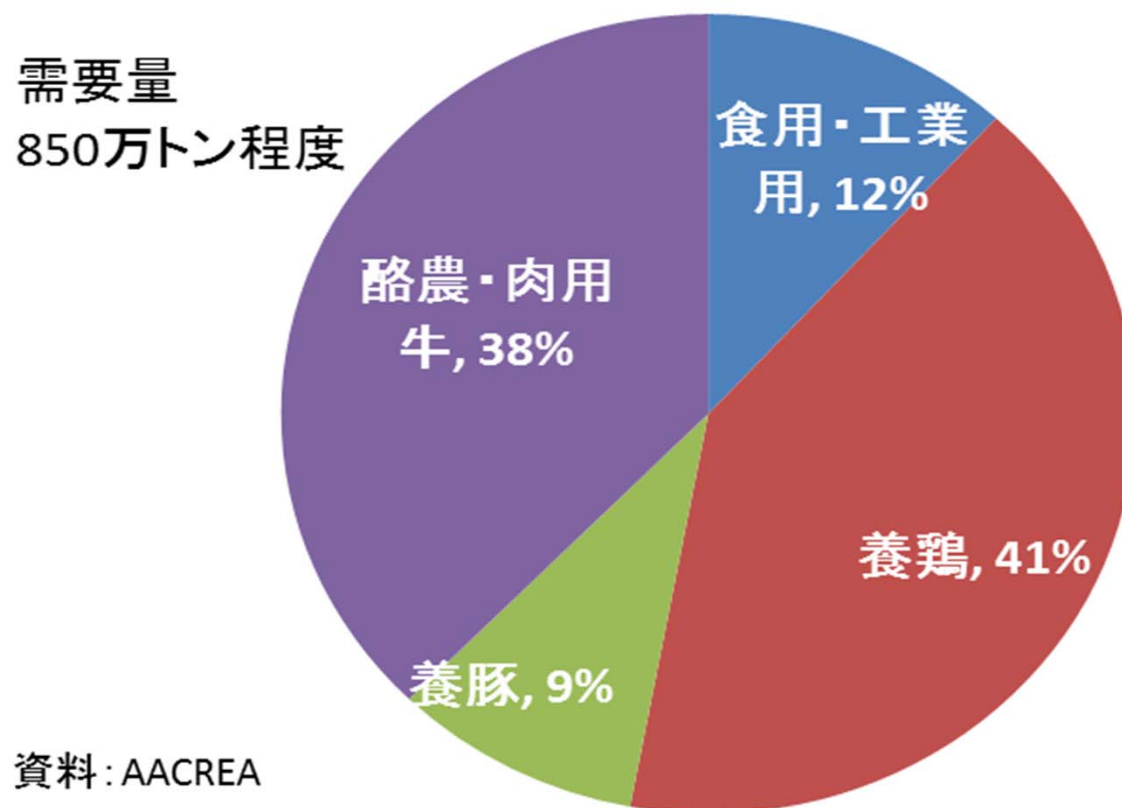
- 国内消費量はここ数年、800万トン前後で推移。
養鶏・養豚向けなどの国内飼料用向け需要は上向き。



資料：USDA

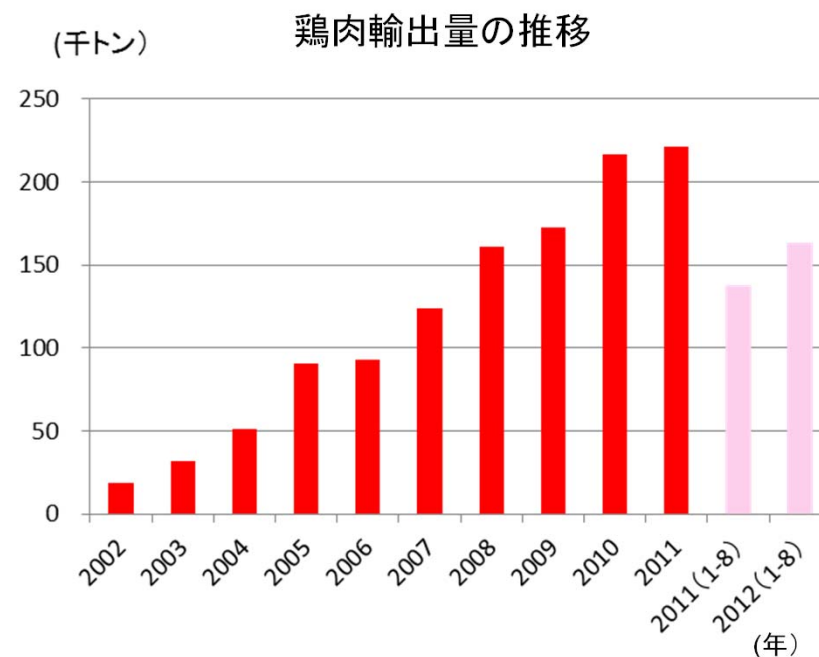
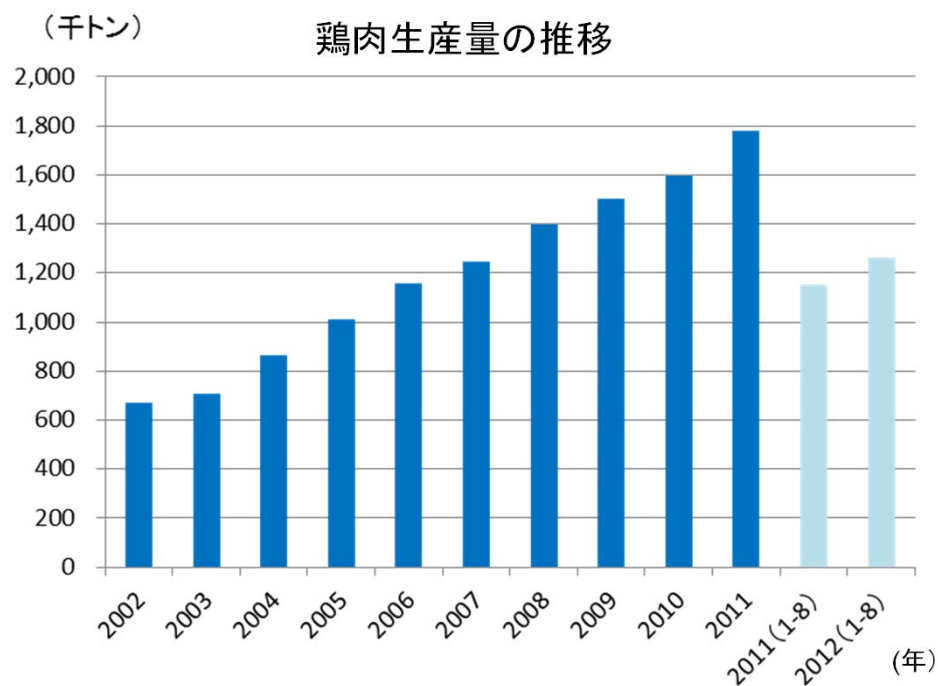
国内需要の内訳（2012/13年度予測）

- トウモロコシの国内需要量は生産量の4割程度。



国内需要の伸び要因（鶏肉）

- 嗜好の変化や牛肉価格高騰による代替需要から国内需要は好調。
- 鶏肉成長計画(2010～2017年・アルゼンチン養鶏加工協会)によると、国内鶏肉生産量の25%を輸出することを目標。⇒さらなる増産へ

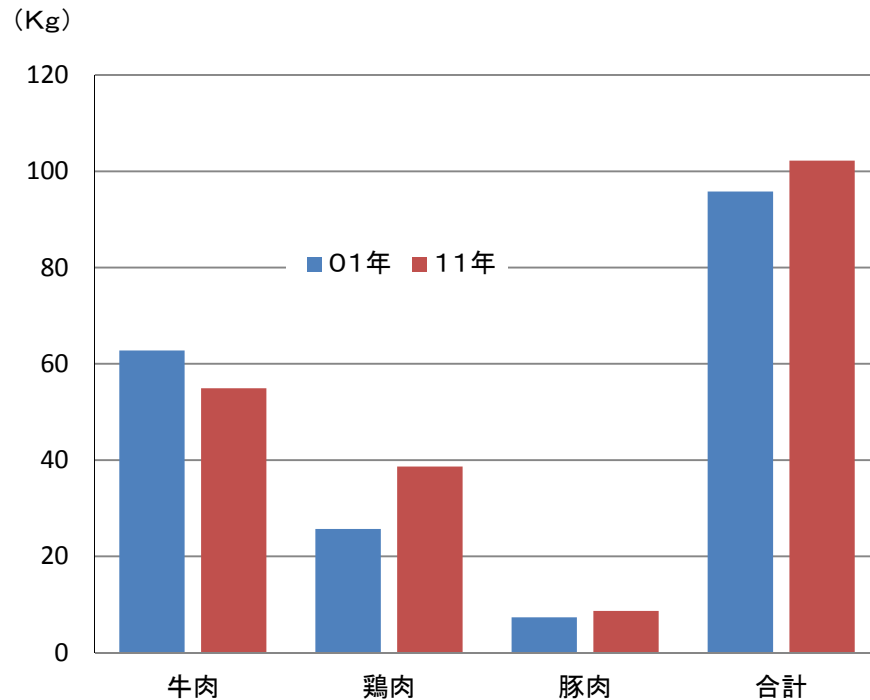


資料：MINAGRI

食肉の年間1人当たり消費量の推移

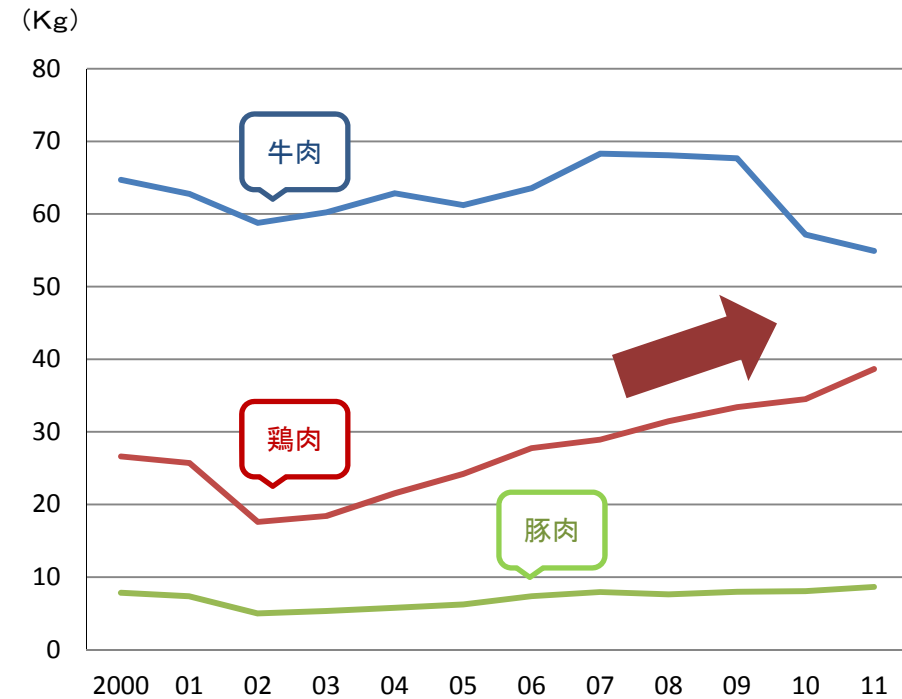
- 牛肉の消費量は20年間で20kg近く減少。
- 一方で、鶏肉と豚肉の消費が伸びている。

年間1人あたりの食肉消費量(01年と11年の比較)



資料; MINAGRI

年間1人あたりの食肉消費量の推移(畜種別)



資料; MINAGRI

トウモロコシの農家販売価格の推移

- アルゼンチンでの農家販売価格は上昇傾向にあるものの、米国と比較して2～3割程度安価

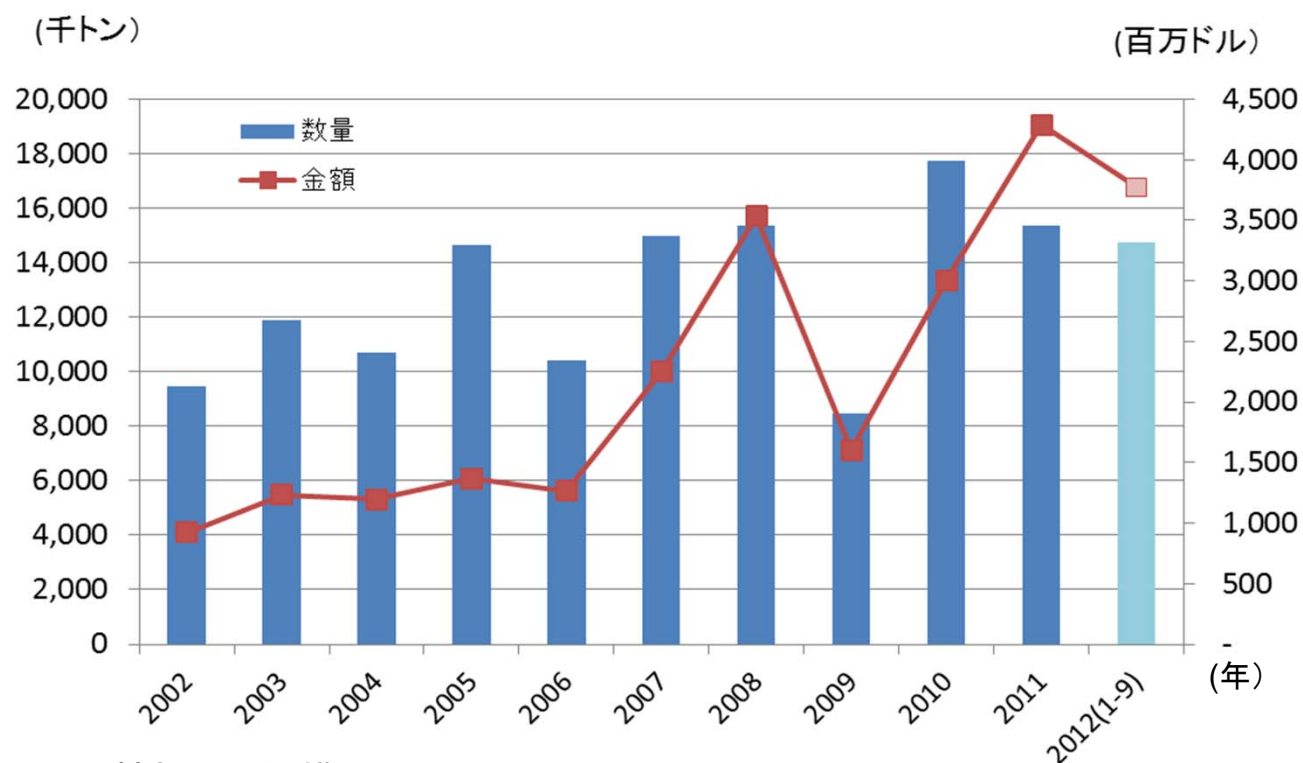
(ドル/トン)

	05年	06年	07年	08年	09年	10年
アルゼンチン	70.3	92.8	118.0	137.8	113.7	135.1
米 国	70.9	120.0	165.0	160.0	140.0	213.0

資料:FAO

トウモロコシ輸出の推移

- 政府の輸出管理政策により、国内需要分が確保された上で、その年の生産状況により余剰分が輸出に回る仕組み。
- 2012年1～9月の輸出量は1,473万トン、金額は37億7300万ドル。



資料: 国家動植物衛生機構 (SENASA)

トウモロコシの主要輸出先国

○ 主要輸出先は、コロンビア、アルジェリア、韓国

(単位:千トン、百万ドル)

	2011年			2012年(1~9月)				
	国名	数量	金額	国名	数量	対前年同期 増減率	金額	対前年同期 増減率
1	コロンビア	2,236	622	コロンビア	2,049	13.2	530	31.7
2	アルジェリア	1,800	490	アルジェリア	1,830	22.9	473	18.4
3	ペルー	1,572	433	韓国	1,205	-	307	-
4	マレーシア	1,306	368	マレーシア	1,017	△ 5.0	258	△ 14.2
5	インドネシア	1,204	326	エジプト	992	△ 10.3	251	△ 17.4
6	エジプト	1,146	315	ペルー	966	△ 23.0	246	△ 28.1
7	サウジアラビア	697	220	モロッコ	778	31.3	198	18.5
	日本	449	128	日本	492	27.6	124	13.9
	合計	15,374	4,285	合計	14,732	13.3	3,773	4.5

資料: SENASA

ロジスティックス



- 農産物輸送は、水上輸送(9割)とトラック輸送(1割)。
- 主要な水上輸送は、パラナ川を利用したルート。パラナ川はパナマックス級の船舶が運行が可能。ただし、水深が10m程度のため、満載はできず。河川沿岸に穀物の積み出し港が多数設置。
- 政府の管理集中で、至る所で「待機」。

資料:アルゼンチン港湾協会(CPPC)

輸出に係る課題

- 政府による各方面への規制
為替管理政策(複数の為替レートが存在)

公式レート	闇レート
4.81ペソ/ドル	6.4ペソ/ドル

〔11月20日現在
為替サイトより〕

輸出管理政策(輸出税、輸出登録制度)

輸出税

品目	トウモロコシ	大豆
税率	20%	35%



- 「不安定さ・不確実さ」が常に存在

今後の生産・輸出見通し

- 2012/13年度の生産量は2,500万トン程度の見込み
- 2012/13年度の輸出許可数量は1,500万トン。(7月15日政府公表)
来々年2月15日から3月1日の間、業者が買付けた数量にのみ輸出許可申請の予定。
- 許可数量は、今年度天候が良好で増産が期待できることから、来々年3月頃、300万トン程度の追加の見通し(農務長官談)。
- ただし、10月下旬から予想以上の降雨で作付に遅れが生じており、増産の見通しは不透明

まとめ

- 1 世界のトウモロコシ需給は、米国における高温・乾燥の影響による生産減少から今後もひっ迫傾向で推移する見込み
- 2 アルゼンチンでは、パンパ地域を中心に大豆生産が拡大しつつも、トウモロコシは一定の生産を確保。
穀物生産に適した土地はまだ残されており、トウモロコシ増産の潜在能力は非常に高い。
- 3 日本としても、調達先の多角化等の観点から、アルゼンチン産トウモロコシの生産動向等を注視することが必要。

ご清聴ありがとうございました。



alic

Agriculture & Livestock Industries Corporation

www.alic.co.jp